

令和 8 年産麦類の栽培ポイント

1. 雑草対策

- ・麦の栽培を予定しているほ場に雑草が目立つ場合は、耕す前にラウンドアップマックスロードを散布しましょう。
- ・雑草を抑制するために土が乾いている時に時間をかけて丁寧に耕耘を行い、土壌処理剤の効果を高めましょう。
- ・播種後はクリアターンまたはリベレーター土壌処理剤を散布しましょう。
- ・播種後、雑草が多い場合は、1月～2月に茎葉処理剤を散布しましょう。
- ・播種直後の土壌処理剤だけでは、マメ科雑草やタデ類を抑えきれない場合があるため、2月末までにハーモニー75DF水和剤またはMCPソーダ塩を散布しましょう。

【除草体系】

	除草剤 1 回目 (播種前)	除草剤 2 回目 (播種後)	除草剤 3 回目 (2 月下旬～3 月中旬)
大麦	ラウンドアップ マックスロード	クリアターン 又は リベレーター	MCP ソーダ塩

	除草剤 1 回目 (播種前)	除草剤 2 回目 (播種後)	除草剤 3 回目 (2 月下旬～3 月中旬)
小麦	ラウンドアップ マックスロード	クリアターン 又は リベレーター	ハーモニー75DF 又は MCP ソーダ塩

※農薬ラベルを確認し、使用基準を守った散布をお願いします。

2. 倒伏対策

- ・播種深が浅いと、根が浮き上がって倒伏しやすくなりますので、3～4 cmの深さに播種しましょう。
- ・播種の条間が 30 cm 以上の場合は、播種量を 7 kg/10 a 程度に減らし、倒伏を軽減しましょう。
- ・「びわほなみ」は、早播きすると過繁茂となり茎が細くなって倒伏する場合がありますので、11月5日以降に播種を行いましょう。
- ・麦踏みを行うと茎数の増加、耐干性と耐寒性の強化、倒伏防止の効果が高まります。分けつ初期（12月中旬・下旬）から2月上旬までにはほ場の乾燥時を見計らって実施しましょう。

3.穂発芽対策

- ・倒伏すると穂が葉や茎と接触して乾きにくく、穂発芽しやすい状態となりますので、倒伏対策を実施し、穂発芽のリスク軽減を図りましょう。
- ・立毛状態でも雨にあたると穂発芽することがありますので、子実水分が 30%以下となれば速やかに収穫しましょう。

4.赤かび対策

【適期播種】

播種時期が遅くなると開花期が5月となり、4月に比べ気温が高く雨が多いため赤かび病に感染しやすくなります。また、播種時期が長いと開花が揃わず適期防除が難しいため、播種は栽培こよみの播種適期（許容範囲）に行いましょう。

天候により播種が遅れる場合がありますので、10月上旬には排水対策(明渠・暗渠)を行い、播種適期(許容範囲)までに作業準備が出来ている状態で、計画的な播種を行いましょう。

【倒伏軽減】

倒伏すると赤かび病が増加するので、前述の倒伏対策を実施しましょう。

【適期防除】

1回目の防除は、防除効果を高めるため、開花始めに防除を行ってください。また、1回目防除の7~10日後に2回目の防除を実施してください。滋賀県病虫害防除所から赤かび病の注意報が発令された時や、気温が高く雨が多い場合は3回目の防除を実施しましょう。

【適期収穫】

雨にあたると赤かび病が増加するので、成熟期を迎えて子実水分が 30%以下となれば、出来る限り降雨の前に収穫をしましょう。また、収穫後に水分が高い状態で放置すると赤かび病が増加しますので、出来るだけはやくカントリーへ持ち込みましょう。